

第7回 Yokohama 地域学校協働活動フォーラムに参加して（越村佳代子）

前回初めて参加して、多くの団体が活動していることに驚き、励まされました。しかし、私たちが一番アピールしたい当の現場の先生がほとんど来られず、がっかりしました。

今回は市教委との共催が実現し、会場は格段に広くなり、動きやすくなりました。先生方の参加も研修扱いとなり、参加への動機づけに高まったかに思えましたが、事前申し込みは31人、当日参加も合わせて40人という少なさで、パンフレットは100部では不足するかもしれないとの予測は外れました。

それでも、午後の見本市の後でグループに分かれての交流会で直接先生の生の声が聞けたのは収穫のひとつでした。それによると、総合学習の時間ではかなり、自己裁量が効くので、外部講師の採用も可能だそうです。その先生はご自身で、地元の商店などを回って、積極的に「外部講師」を見つけに出かけたと言っておられました。テーマにもよりますが、地域や地元の利点が大きいと感じました。国際理解のような分野については、少々敷居が高いのか、ご自身のなかに問題意識を見つけにくのか、見本市のブースの盛況ぶりを見てみると、やはり、環境とかプログラムとか「イマドキ」が優勢のようでした。もちろん、私たちは積極的に声かけ、名刺交換、情報提供することで、これからの若い人に広い視野を持ってもらう私たちの団体の趣旨を熱心に説き、少なくない好反応を得たことは大いなる収穫でした。

午前中の他団体との交流では、同じグループになった一般社団法人日本オーストラリアン・フットボール協会の青年の話が印象に残りました。単なるスポーツ教室ではなく、体験や映像を通して、自分の好きな事、好きな事へのかかわり方、たとえば、実技は下手でも、「好き」なら選手の健康管理といったかかわり方もあるなど、多様なかかわり方を書き出し、発表します。『『好き』を将来の夢に！』がこの事業のタイトルで、スポーツが苦手でも「好き」という気持ちを大切にするにはどうしたらいいのかについて、具体的なイメージが湧くように組み立てられています。体を動かすことと考えることが相互に刺激し合って、わくわくするような時間を共有できるようです。

英語落語の好評にみられるように、私たちも座学以外の工夫をもっと多様に取り入れる必要があるのかもしれない。（終）